



「エネ研てんこもり14」を開催しました。

猛暑だった夏も一段落した平成25年8月24日(土)に、14回目となるエネ研施設公開イベント「エネ研てんこもり」を開催し、近隣市町から大勢の皆さまにお越しいただきました。



旭理事長の開会挨拶



サイエンス実験ショー



ホールでは、(独法) 科学技術振興機構のサイエンスレンジャーとして活躍されている福井市治水記念館館長の平井博政先生をお招きし、サイエンス実験ショーを開催しました。

会場の子供たちが興味津々に見つめる中、ビニールホースやペットボトルを組み合わせでつくった笛で動物や恐竜の鳴き声を出したり、巨大空気砲から煙のリングを出すなど、驚きの実験と楽しいパフォーマンスが披露されました。

屋外では、小型太陽炉「はんたか」を使ったマシユマロの加熱調理の実演を行いました。

てんこもりの人気イベントの一つである工作教室では、ボトルフラワーやバランスとんぼ、オリジナルせんすをつくったり、鏡に絵を描く体験コーナーなどが行われ、多くの親子連れでにぎわいました。



「はんたか」を使った実演



ボトルフラワー工作



バランスとんぼをつくろう



浮沈子を作ろう



顕微鏡観察コーナー

また、生きものの顕微鏡観察や放射線測定コーナーを設けるとともに、エネ研の施設や取り組んでいる研究内容を知っていただくために、クイズ形式のスタンプラリーも行われ、楽しみながらエネ研のいろいろな施設や研究紹介パネルを見ていただきました。

夏休み中のお子さんには、科学の面白さや不思議さに触れる貴重な体験となったことでしょう。

「夏休み科学実験チャレンジ教室」が開催されました

平成 25 年 7 月 29 日（会場：福井県嶺南教育事務所）と平成 25 年 8 月 7・9 日（会場：福井県教育研究所）に、福井県教育委員会の主催による「夏休み科学実験チャレンジ教室」が開催され、エネ研が講義と実験指導に協力しました。

このチャレンジ教室は、理科に関心がある中学生を集めて、現在注目されている新エネルギー等最先端の技術をテーマに、県内の研究者による専門的な講義と、学校の先生が指導する実験を通して、科学的思考力を育成することを目的としています。

今年度の参加者は、福井県内の中学生合計 370 名（男子 251 名、女子 119 名）で、エネ研の西尾主任研究員が、太陽電池の仕組みや新エネルギーについて講義を行い、その後グループに分かれて、色素増感太陽電池を作り、電子オルゴールを鳴らす実験を行いました。

どのグループも熱心に取り組んでいました。



西尾主任研究員による講義の様子



実験に取り組む様子

支援制度の成果紹介：梅うどん、自然薯うどん（名田庄商会）

おい町の榊名田庄商会が、特産の若狭梅を練り込んだ「梅うどん」と、名田庄の自然薯を使った「自然薯うどん」を売り出しています。梅うどんは梅の香りが豊かで、ほどよい酸味とのとごしの良さが特徴です。また、自然薯うどんは独特の粘り気ともちもちとした食感が楽しめます。

製品開発にあたっては、エネ研の「嶺南企業新産業創出シーズ発掘調査補助金」を活用し、社内にプロジェクトチームを立ち上げて、昨年 10 月から試作と試食を重ねました。

商品はどちらも 1 袋 2 食入り 420 円で、道の駅うみんぴあ大飯、道の駅名田庄、名田庄あきない館で販売しています。

エネ研の「シーズ発掘調査補助金」は、嶺南に事業所を有する中小企業の皆さまに対して、新技術や新製品の開発を行うためのシーズ（ヒント、アイデア等）の調査や試作実験等に要する費用を補助するものです。補助金限度額は 50 万円、補助率は 2/3 で、専門家への謝金や文献調査費、現地調査のための交通費なども対象となります。

随時募集中ですので、お気軽にご相談ください。

お問合せは、エネ研・産業育成部（☎ 0770-24-7276）まで。



右が梅うどん、奥が自然薯うどん、
（左は既存製品のよもぎうどん）

